

博士論文（要約）

論文題目 東周時代青銅器の生産と流通—華中地域を中心に—

氏名 山本 堯

目 次

第 I 章 本研究の目的と手法	11
1. 本研究の目的	11
2. 先行研究と問題の所在	13
3. 本研究の手法と特色	17
第 II 章 青銅彝器の生産と流通	23
1. はじめに	23
2. 分析の視点	23
3. 単位紋様の分類	24
4. 型式分類	32
5. 時期区分と様式	63
6. 資料群の設定	71
7. 分布の変化	72
8. 青銅彝器生産・流通の画期とその史的意義	75
第 III 章 青銅戈戟の生産と流通	83
1. 問題の設定	83
2. 研究史	84
3. 分析方法	86
4. 型式分類と編年	88
5. 絶対年代	94
6. 資料群の設定	99
7. 時期別組成の変化	100
8. 分布から見た特性	102
9. 系譜の出自	105
10. 小結	106
第 IV 章 青銅器伝世からみた社会構造の変革	115
1. 研究史と問題の所在	116
2. 分析方法	119
3. 浙川楚墓群出土の青銅彝器	120
4. 伝世の認識	125
5. 青銅礼器の伝世とその歴史的意義	128
6. 小結	131

第V章 青銅器流通の社会的背景 137

1. 本章の目的 137
2. 問題の設定 137
3. 春秋青銅器の生産 139
4. 春秋青銅器の流通 150
5. 表象される過去—春秋青銅器の「時間性」— 163
6. 流動する彝器 168

第VI章 結論 177

1. 本書における議論 177
2. 青銅器のライフヒストリーの変化と身分制 179
3. 「府」の成立 180
4. 「都市型官僚層」の出現 181

図版出典 186

後記 190

表目録

表 1-1	平底鼎 I 型属性対応表	37
表 1-2	平底鼎 II A 型属性対応表	37
表 1-3	平底鼎 II B 型属性対応表	37
表 2-1	有蓋鼎 A 型属性対応表	43
表 2-2	有蓋鼎 A 型単位紋様一覧	43
表 3	有蓋鼎 B 型属性対応表	47
表 4	簠属性対応表	49
表 5-1	盞／敦属性対応表	53
表 5-2	盞／敦単位紋様一覧	53
表 6	缶 A 型属性対応表	56
表 7	缶 B 型属性対応表	58
表 8	壺属性対応表	59
表 9	共伴関係一覧	65
表 10	各資料群対応表	73
表 11-1	戈属性対応表	91
表 11-2	戈型式一覧	91
表 13-1	無内戟属性対応表	92
表 13-2	無内戟型式一覧	92
表 12-1	有内戟属性対応表	92
表 12-2	有内戟型式一覧	92
表 14	共伴関係一覧	93
表 15	楚墓編年対応表	96
表 16-1	属性対応表	101
表 16-2	戈属性対応表	101
表 16-3	有内戟属性対応表	101
表 16-4	無内戟属性対応表	101
表 17-1	時期別 A～E 群数量	103
表 17-2	時期別 A～E 群割合	103
表 18	浙川楚墓群出土青銅彝器一覧	124
表 19	出土青銅彝器型式一覧	126

図版目録

図 1	単位紋様の変遷	29
図 2	無蓋鼎の諸型式	35
図 3	平底鼎属性一覧	36
図 4	平底鼎の諸型式	39
図 5	有蓋鼎属性一覧	43
図 6	有蓋鼎の諸型式	45
図 7	簠属性一覧	49
図 8	簠の諸型式	51
図 9	盞／敦属性一覧	53
図 10	盞・敦の諸型式	54
図 11	缶／壺属性一覧	55
図 12	缶 A 型の諸型式	57
図 13	缶 B 型・壺の諸型式	59
図 14	盤・匱の諸型式	62
図 15	青銅彝器の編年	68
図 16	各群分布図	75
図 17	戈戟各部位名称	87
図 18	戈戟の諸属性	89
図 19	青銅戈戟変遷図	95
図 20	A～E 群分布図	104
図 21	C 群・D 群関連資料	105
図 22	戈戟諸系譜変遷図	107
図 23	浙川楚墓群分布図	116
図 24	下寺遺跡平面図	117
図 25	浙川楚墓群出土青銅彝器	121
図 26	下寺 2 号墓出土戈	123
図 27	和尚嶺・徐家嶺墓地平面図	127
図 28	倣古青銅器の諸例	127
図 29	関連地図	138
図 30	侯馬系蟠螭紋・螭紋の諸例	141
図 31	侯馬系蟠螭紋三種	142
図 32	華中地域の蟠螭紋・螭紋	143
図 33	蟠虺紋・変形蟠螭紋の諸例	145
図 34	新鄭出土青銅器と蟠螭紋	147
図 35	侯馬出土鐘罍原型と饗養紋原型	148
図 36	琉璃閣出土青銅彝器紋様	153

図 37	山彪鎮出土青銅彝器紋様	155
図 38	吳越青銅器関連資料	157
図 39	伝世青銅器	164
図 40	倣古青銅器	166

本論文の内容は5年以内に単行本として出版予定。

参考文献一覧

【日文・中文】(五十音順)

- 浅原達郎 1988 「者刃鐘」『泉屋博古館紀要』第5号
- 安倍道子 1975 「楚の令尹について」『東海史学』第10号
- 安倍道子 1986 「春秋後期の楚の「公」について—戦国封君出現に向けての一試論—」『東洋史研究』第45巻第2号
- 安倍道子 1987 「楚の王位継承法と靈王・平王期」『史学』第57巻第1号
- 安倍道子 2015 「春秋時代の略について」『史学』第85巻第1号
- 安徽省文化局文物工作隊 1963 「安徽淮南市蔡家崗趙家古堆戦国墓」『考古』第4期
- 安徽省文物管理委員会・安徽省博物館 1956 『寿县蔡侯墓出土遺物』科学出版社
- 安徽省文物考古研究所・蚌埠市博物館編 2013 『鐘离君柏墓』文物出版社
- 安徽省文物考古研究所・鳳陽県文物管理所編 2010 『鳳陽大東関与卞莊』科学出版社
- 安志敏 1953 「河北省唐山賈各莊発掘報告」『考古学報』第6冊
- 石川岳彦 2017 『春秋戦国時代燕国の考古学』雄山閣
- 石谷慎 2013 「同型鏡・同印鏡論の提言—戦国鏡の制作と流通—」『中国考古学』第13号
- 石谷慎 2016 「曾國青銅器の製作工人群とその系譜」『中国考古学』第16号
- 岩永省三 1987 「伝世考」『東アジアの考古と歴史(中巻) 岡崎敬先生退官記念論集』同朋舎出版
- 上原真人 1980 「十一・十二世紀の瓦当文様の源流(上)(下)」『古代文化』第32巻第5・6号
- 宇都木章 2012 「戦国時代の楚の世族」『春秋戦国時代の貴族と政治』名著刊行会
- 梅原末治 1931 「所謂秦銅器に就いて」『史学』第10巻第3号(梅原末治1944『東亞考古學論攷』星野書店に再録)
- 梅原末治 1936a 『戦国式銅器の研究』東方文化学院京都研究所研究報告第7冊
- 梅原末治 1936b 『漢以前の古鏡の研究』東方文化学院京都研究所研究報告第6冊
- 梅原末治 1940 『古銅器形態の考古学的研究』東方文化学院京都研究所研究報告第15冊
- 《雲夢睡虎地秦墓》編写組 1981 『雲夢睡虎地秦墓』文物出版社
- 海老根量介 2016 「春秋中～後期における申の復国問題について」『史学雑誌』第125編第1号
- 江村治樹 1980 「春秋戦国時代の銅戈・戟の編年と銘文」『東方学報』第52冊(江村治樹2000『春秋戦国秦漢時代出土文字資料の研究』汲古書院に再録)
- 江村治樹 1983 「春秋戦国時代の無内銅戈について」『展望アジアの考古学—樋口隆康教授退官記念論集』新潮社
- 江村治樹 1985 「戦国新出土文字資料概述」林巳奈夫編『戦国時代出土文物の研究』京都大学人文科学研究所
- 江村治樹 1988 「青銅礼器から見た春秋時代の社会変動」『名古屋大学文学部研究論集(史学)』第34巻
- 袁艷玲 2019 『楚系青銅礼器的生産与流通』科学出版社
- 王紅星・胡雅麗 1991 「由包山二号楚墓看楚系高級貴族墓的用鼎制度」『包山楚墓』文物出版社
- 大澤直人 2007 「戦国楚の政權構造—戦国世族を中心に—」『立命館東洋史』第30号
- 太田麻衣子 2009 「鄂君啓節からみた楚の東漸」『東洋史研究』第68巻第2号
- 岡田功 1981 「楚国と呉起変法—楚国の国家構造把握のために—」『歴史学研究』第490号
- 岡村秀典 1985 「秦文化の編年」『古史春秋』第2号
- 岡村秀典 1986 「呉越以前の青銅器」『古史春秋』第3号
- 岡村秀典 1991 「戦国から秦漢への文様の展開」『泉屋博古館紀要』第7巻
- 岡村秀典 2005 『中国古代王権と祭祀』学生社
- 岡村秀典 2008 「中国古代の青銅器生産」『國學院雑誌』第109巻第11号
- 小倉芳彦 1970 『中国古代政治思想研究』青木書店
- 小澤正人 1989 「東周期副葬陶器の表すもの—湖北省西・北部を中心に—」『古代』第88号
- 小澤正人 2011 「河南省浙川県李官橋墓地における春秋戦国時代墓葬についての一考察」『古代』第125号
- 貝塚茂樹 1946 『中国古代史学の発展』弘文堂書房
- 華覚明 1999 『中国古代金属技術』大象出版社
- 郭德維 1984 「戈戟之再辨」『考古』第12期
- 鄂平 1973 「湖北随県発現曾國銅器」『文物』第5期

- 郭宝鈞 1959 『山彪鎮与琉璃閣』 科学出版社
- 郭宝鈞 1961 「殷周的青銅武器」『考古』第2期
- 郭宝鈞 1981 『商周銅器群綜合研究』 文物出版社
- 郭沫若 1932 『兩周金文辭大系』 文求堂書店
- 郭沫若 1958 「者刃鐘銘考釈」『考古學報』第1期
- 河南省丹江庫区文物發掘隊 1980 「河南省淅川縣下寺春秋楚墓」『文物』第10期
- 河南省文物管理局南水北調文物保護辦公室·南陽市文物考古研究所 2008 「河南省淅川縣徐家嶺11号墓」『考古』第5期
- 河南省文物考古研究院 2015 「河南淇縣宋莊東周墓地M4發掘簡報」『華夏考古』第4期
- 河南省文物考古研究所編 2003 『新蔡葛陵楚墓』 大象出版社
- 河南省文物考古研究所編 2004 『固始侯古堆一号墓』 大象出版社
- 河南省文物考古研究所編 2006 『新鄭鄭國祭祀遺址』 大象出版社
- 河南省文物研究所編 1986 『信陽楚墓』 文物出版社
- 河南省文物研究所·河南省丹江庫区考古發掘隊·淅川縣博物館編 1991 『淅川下寺春秋楚墓』 文物出版社
- 河南省文物考古研究所·桐柏縣文物管理委員會 2005 「河南桐柏月河墓地第二次發掘」『文物』第8期
- 河南省文物考古研究所·南陽市文物考古研究所·淅川縣博物館編 2004 『淅川和尚嶺与徐家嶺楚墓』 大象出版社
- 河南省文物研究所·南陽地区文物研究所·淅川縣博物館 1993 「淅川和尚嶺春秋楚墓的發掘」『華夏考古』第3期
- 河南信陽地区文管會·光山縣文管會 1984 「春秋前期黃君孟夫婦墓發掘報告」『考古』第4期
- 河南博物院·台北國立歷史博物館編 2003 『輝縣琉璃閣甲乙二墓』 大象出版社
- 管丹平·朱華東 2010 「皖南出土青銅戈及初步研究」『東方博物』第36輯
- 金則恭 1984 「湖南東周時期銅戈的分期及有關問題」『湖南考古輯刊』第2輯
- 黃錫全 2002 「新見宜陽銅戈考論」『考古与文物』第2期
- 高崇文 1992 「試論晉南地区東周銅器墓的分期与年代」『文博』第4期
- 黃盛璋 1974 「試論三晉兵器的國別和年代及相關問題」『考古學報』1974年第1期（黃盛璋1982『歷史地理与考古論叢』齊魯書社に再録）
- 高成林 1996 「淅川和尚嶺楚墓的年代問題」『中原文物』第4期
- 黃石市博物館編 1999 『銅綠山古砦冶遺址』 文物出版社
- 江蘇省丹徒考古隊 1988 「江蘇丹徒北山頂春秋墓發掘報告」『東南文化』第3期·第4期合刊
- 江蘇省文物管理委員會·南京博物院 1965 「江蘇六合程橋東周墓」『考古』第3期
- 黃鳳春·胡剛 2014a 「說西周金文中的“南公”——兼論隨州葉家山西周曾國墓地的族屬」『江漢考古』第2期
- 黃鳳春·胡剛 2014b 「說西周金文中的“南公”——二論隨州葉家山西周曾國墓地的族屬」『江漢考古』第5期
- 高明 1981 「中原地区東周時代青銅禮器研究（上）（中）（下）」『考古与文物』第2-4期。
- 吳雅芝 1997 「戰國三晉銅器研究」『國立台灣師範大學國文研究所集刊』第41号
- 顧頡剛 1937 「春秋時代的鼎」『禹貢半月刊』第6·7期合刊
- 胡剛 2013 「有“都”銅器与都國歷史新論」『文物』第4期
- 顧鐵符 1985 「關於河南淅川楚墓的若干參考意見」『故宮博物院院刊』第3期
- 湖南省博物館·湖南省文物考古研究所·長沙市博物館·長沙市文物考古研究所編 2000 『長沙楚墓』 文物出版社
- 湖南省常德市文物局·常德博物館·鼎城区文物管理处·桃源縣文物管理所·漢壽縣文物管理所編 2010 『沅水下游楚墓』 文物出版社
- 湖南省文物考古研究所·慈利縣文物保護管理研究所 1990 「湖南慈利石板村36号戰國墓發掘簡報」『文物』第10期
- 小林伸二 1989 「黃君孟夫婦墓と黃國」『鴨台史論』第2号、1989年（小林伸二2015『春秋時代の軍事と外交』汲古書院に再録）
- 小林行雄 1955 「古墳の發生の歷史的意義」『史林』第38卷第1号（小林行雄1961『古墳時代の研究』青木書店に再録）
- 小南一郎 1992 「天命と徳」『東方學報』第64冊
- 小南一郎 2006 『古代中国 天命と青銅器』 京都大學學術出版會
- 湖北省宜昌地区博物館·北京大學考古學系編 1992 『當陽趙家湖楚墓』 文物出版社
- 湖北省荊沙鐵路考古隊編 1991 『包山楚墓』 文物出版社
- 湖北省荊州地区博物館 1982 「江陵天星觀1号楚墓」『考古學報』第1期
- 湖北省荊州地区博物館編 1984 『江陵兩台山楚墓』 文物出版社
- 湖北省荊州博物館編 2003 『荊州天星觀2号楚墓』 文物出版社
- 湖北省博物館 1972 「湖北京山發現曾國銅器」『文物』第2期
- 湖北省博物館 1982 「楚都紀南城的勘査与發掘（上）（下）」『考古學報』第4期

湖北省博物館編 1989 『曾侯乙墓』 文物出版社
湖北省文物考古研究所編 1995 『江陵九店東周墓』 科学出版社
湖北省文物考古研究所編 1996 『江陵望山沙塚楚墓』 文物出版社
湖北省文物考古研究所・黃岡市博物館・黃州博物館 2001 「湖北黃州楚墓」『考古學報』第2期
湖北省文物考古研究所・湖北省文物局南水北調辦公室 2008 「湖北鄖縣喬家院春秋殉人墓」『考古』第4期
湖北省文物考古研究所・襄樊市考古隊・襄陽區文物管理處編 2005 『襄陽王坡東周秦漢墓』 科学出版社
湖北省文物考古研究所・襄陽市文物考古研究所・襄陽市襄州區文物管理處編 2013 『襄陽陳坡』 科学出版社
湖北省文物考古研究所・隨州市博物館 2014 「隨州文峰塔 M1 (曾侯乙墓)・M2 發掘簡報」『江漢考古』第4期
湖北省文物考古研究所・天門市博物館編 2012 『天門彭家山楚墓』 科学出版社
佐々木研太 2001 「春秋期の存外公子の即位をめぐる」『二松学舎大学人文論叢』第67輯
佐藤武敏 1962 『中国古代工業史の研究』 吉川弘文館
佐原康夫 1984 「戦国時代の府・庫について」『東洋史研究』第44巻第4号
山西省考古研究所編 1993 『侯馬鑄銅遺址』 文物出版社
山西省考古研究所編 1994 『上馬墓地』 文物出版社
山西省考古研究所編 1996 『侯馬陶范芸術』 普林斯敦大学出版社
山西省考古研究所編 2012 『侯馬白店鑄銅遺址』 科学出版社
山西省考古研究所・太原市文物管理委員會編 1996 『太原晋国趙卿墓』 文物出版社
山西省考古研究所・山西博物院・長治市博物館編 2010 『長治分水嶺東周墓地』 文物出版社
下田誠 2008 『中国古代国家の形成と青銅兵器』 汲古書院
周世榮 1987 「湖南商周秦漢兵器研究 (一)」『湖南考古輯刊』第4輯
朱鳳瀚 1995 『古代中国青銅器研究』 南開大学出版社
朱鳳翰 2009 『中国青銅器綜論』 上海古籍出版社
襄樊市考古隊・湖北省文物考古研究所・湖北孝襄高速公路考古隊編 2005 『棗陽郭家廟曾國墓地』 科学出版社
襄陽市博物館・老河口市博物館編 2018 『老河口安崗楚墓』 科学出版社
襄陽市文物考古研究所編 2011 『襄陽余崗』 科学出版社
襄陽市文物考古研究所 2013 「湖北襄陽沈崗墓地 M1022 發掘簡報」『文物』第7期
襄陽市文物考古研究所 2017 「湖北襄陽市沈崗春秋時期墓葬」『考古』第5期
徐少華 1987 「都国銅器及其歷史地理研究」『江漢考古』第3期
徐少華 1994 『周代南土歷史地理与文化』 武漢大学出版社
徐少華 1996 「呂国銅器及其歷史地理探疑」『中原文物』第4期
白川靜 1964-1980 『金文通積 (全六卷八冊)』 白鶴美術館
秦永軍・韓維龍・楊鳳翔 1989 「河南商水渠出土周代青銅器」『考古』第4期
深圳博物館・湖北省博物館編 2010 『劍舞楚天—湖北出土楚文物展圖録』 文物出版社
信陽地區文管會 1980 「河南信陽發現兩批春秋銅器」『文物』第1期
隨州市博物館編 2008 『隨州擂鼓墩二號墓』 文物出版社
井中偉 2011 『早期中国青銅戈・戟研究』 科学出版社
浙川縣博物館編 2013 『浙川楚国青銅器精粹』 中州古籍出版社
曹璋 2002 「東周時期的賄賂制度」『考古与文物』第6期
宋華強 2010 『新蔡葛陵楚簡初探』 武漢大学出版社
曹桂岑 1994 「浙川和尚嶺春秋楚墓考」『楚文化研究論集』第4集
宋玲平 2003 「再儀輝鼎琉璃閣春秋大墓的国別」『故宮博物院院刊』第4期
宋玲平 2007 『晋系墓葬制度研究』 科学出版社
蘇榮譽・華覺明・李克敏・盧本珊 1995 『中国上古金属技術』 山東科学技術出版社
蘇輝 2013 『秦三晋紀年兵器研究』 上海古籍出版社
蘇州博物館編 2017 『大邦之夢—吳越楚青銅器』 上海古籍出版社
孫海波 1937 『新鄭彝器』 河南通志館
孫百朋 1956 「蔡侯墓出土的三件銅器銘文考釋」『文物參考資料』第12期
高山節也 1979 「西周国家における「天命」の機能」『東洋文化』第59号 (松丸編 1980 に再録)
田中琢 1983 「方角規矩四神鏡系倭鏡分類試論」『文化財論叢』 同朋舎出版
谷口満 1981 「若敖氏事件前後—古代楚国の分解 (その一)—」『史流』第22号

- 田村和親 1988 「西周期における徳の機能と構造—殷周統治形態論序章—」『二松学舎大学論集』第31号
- 中国科学院考古研究所編 1956 『輝県発掘報告』科学出版社
- 中国科学院考古研究所編 1959 『洛陽中州路（西工段）』科学出版社
- 中国社会科学院考古研究所編 1994 『陝県東周秦漢墓』科学出版社
- 中国青銅器全集編輯委員会編 1997 『中国青銅器全集 11 東周 5』文物出版社
- 中国青銅器全集編輯委員会編 1998a 『中国青銅器全集 7 東周 1』文物出版社
- 中国青銅器全集編輯委員会編 1998b 『中国青銅器全集 10 東周 4』文物出版社
- 張亜初 1985 「浙川下寺二号墓の墓主、年代与一号墓編鐘の名称問題」『文物』第4期
- 趙化成 1993 「東周燕代青銅容器的初步分析」『考古与文物』第2期
- 張劍 1992 「浙川下寺楚墓の時代及其墓主」『中原文物』第2期
- 張昌平 2009 『曾國青銅器研究』文物出版社
- 趙瑞民・韓炳華 2005 『晋系青銅器研究—類型学与文化因素分析—』山西人民出版社
- 張西頤 1983 「浅説楚都丹陽在浙川」『中原文物』第4期
- 趙世鋼 1991 「浙川下寺春秋楚墓青銅器銘文考索」『浙川下寺春秋楚墓』文物出版社
- 張聞捷 2015 『楚国青銅礼器制度研究』厦門大学出版社
- 陳偉 1983 「浙川下寺二号墓主及其相關問題」『江漢考古』第1期
- 陳昭容 2004 「從青銅器銘文看两周漢淮地区諸國婚姻關係」『中央研究院歷史語言研究所集刊』第75本第4分
- 陳昭容 2006 「两周婚姻關係中「媵」与「媵器」—青銅器銘文中的性別、身分与角色研究之二」『中央研究院歷史語言研究所集刊』第77本第2分
- 陳昭容 2008 「論山彪鎮1号墓的年代及国別」『中原文物』第3期
- 陳槃 1969 『春秋大事表列国爵姓及存滅譏異（三訂本）』中央研究院歷史語言研究所專刊之五十二
- 陳平 1984 「試論閩中秦墓青銅容器的分期問題（上）（下）」『考古与文物』第3-4期
- 陳夢家 1946 『海外中国銅器図録』国立北平図書館
- 陳夢家 1956 「寿县蔡侯墓銅器」『考古学報』第2期
- 土口史記 2011 『先秦時代の領域支配』京都大学学術出版会
- 程長新 1985 「北京市通県中趙甫出土一組戦国青銅器」『考古』第8期
- 天津博物館編 2018 『天津博物館蔵青銅器』文物出版社
- 董珊 2010 『吳越題銘研究』科学出版社
- 董書業 1941 『春秋史』開明書店
- 豊田久 1979 「周王朝の君主権の構造について—「天命の膺受」者を中心に—」『東洋文化』第59号（松丸編1980に再録）
- 豊田久 1998 「成周王朝の君主とその位相—豊かさと安寧—」水林彪・金子修一・渡辺節夫編『王権のコスモロジー—比較歴史学大系1』弘文堂
- 難波純子 1989 「初現期の青銅彝器」『史林』第72巻第2号
- 難波純子 1990 「殷墟前半期の青銅彝器の編年と流派の認識」『史林』第73巻第6号
- 難波純子 1995 「殷墟後半期の青銅彝器（上）」『泉屋博古館紀要』第11巻
- 難波純子 1996 「殷墟後半期の青銅彝器（下）」『泉屋博古館紀要』第12巻
- 南陽市文物考古研究所 2012 「河南南陽李八廟春秋楚墓清理簡報」『文物』第4期
- 西田守夫 1973 「寿县蔡侯墓銅器の製作時期をめぐって」『MUSEUM』第267号
- 丹羽崇史 2006 「春秋戦国時代華中地域における青銅器生産体制復元のための基礎的検討—青銅鼎の製作技術の分析から—」『中国考古学』第6号
- 野間文史 1972 「春秋時代における楚国の世族と王権」『哲学』第24集
- 林巳奈夫 1972 『中国殷周時代の武器』朋友書店
- 林巳奈夫 1978 「殷西周間の青銅容器的編年」『東方学報』第50冊
- 林巳奈夫 1980a 「『周礼』の六尊六彝と考古学遺物」『東方学報』第52冊
- 林巳奈夫 1980b 「『儀礼』と敦」『史林』第63巻第6号
- 林巳奈夫 1984 『殷周時代青銅器の研究—殷周青銅器綜覧一』吉川弘文館
- 林巳奈夫 1989 『春秋戦国時代青銅器の研究—殷周青銅器綜覧三』吉川弘文館
- 樋口隆康 1963 「西周銅器の研究」『京都大学文学部研究紀要』第7号（樋口隆康1983『展望アジアの考古学—樋口隆康教授退官記念論集—』新潮社に再録）
- 菱田哲郎 1992 「須恵器生産の拡散と工人の動向」『考古学研究』第39巻第3号

- 平勢隆郎 1981 「楚王と県君」『史学雑誌』第90編第2号（平勢隆郎1998『左伝の史料批判的研究』汲古書院に再録）
- 平勢隆郎 1987 「『左伝』昭公十三年「靈王遷許胡沈道房申於荊焉」をめぐって—対楚従属国の遷徙問題—」『東洋史研究』第46巻第3号（同上）
- 平勢隆郎 1996 『中国古代紀年の研究—天文と暦の検討から—』汲古書院
- 馮峰 2015 「克黄器与浙川遠氏墓群」『湖南考古輯刊』第11集
- 藤田勝久 2005 『中国古代国家と郡県社会』汲古書院
- 文崇一 1967 『楚文化研究』中央研究院民族学研究所專刊之十二
- 北京大学考古学系商周組・山西省考古研究所編 2000 『天馬—曲村 1980-1989』科学出版社
- 宝鷄市周原博物館編 2016 『周原—莊白西周青銅器窖藏考古發掘報告』科学出版社
- 増淵龍夫 1996 『新版 中国古代の社会と国家』岩波書店
- 間瀬収芳 1990 「中国で相いつぐ古銅鉞の発見をめぐって」『東洋史研究』第49巻第1号
- 町田章 2006 『研究論集XV 中国古代の銅劍』奈良文化財研究所学報第75冊
- 松井嘉徳 2002 『周代国制の研究』汲古書院
- 松井嘉徳 2016 「顧命の臣—西周、成康の際—」『アジア史学論集』第10号
- 松井嘉徳 2019 『記憶される西周史』朋友書店
- 松丸道雄 1970 「殷周国家の構造」『岩波講座 世界歴史4 古代4』岩波書店
- 松丸道雄 1977 「西周青銅器製作の背景—周金文研究・序章—」『東洋文化研究所紀要』第72冊（松丸道雄編1980『西周青銅器とその国家』東京大学出版会に再録）
- 松丸道雄 1979 「西周青銅器中の諸侯製作器について—周金文研究・序章その二—」『東洋文化』第59号（同上）
- 松丸道雄編 1980 『西周青銅器とその国家』東京大学出版会
- 松本光雄 1952 「中国古代の邑と民・人との関係」『山梨大学学芸学部研究報告』第3号
- B・マリノフスキ（増田義郎訳）2010 『西太平洋の遠洋航海者』講談社学術文庫
- 水野卓 2003 「春秋時代における統治権の変容—「器」の意味を中心として—」『東方学』第106輯
- 水野清一 1959 『殷周青銅器と玉』日本経済新聞社
- 宮本一夫 1985 「七国武器考」『古史春秋』第2号
- 宮本一夫 1990 「戦国鏡の編年（上）（下）」『古代文化』第42巻第4・6号
- 宮本一夫 2000 『中国古代北疆史の考古学的研究』中国書店
- 森下章司 1991 「古墳時代仿製鏡の変遷とその特質」『史林』第74巻第6号
- 森下章司 1997 「鏡の伝世」『史林』第81巻第4号
- 森下章司 2002 「古墳時代倭鏡」車崎正彦編『考古資料大観5 弥生・古墳時代 鏡』小学館
- M・モース（吉田禎吾・江川純一訳）2009 『贈与論』ちくま学芸文庫
- 柳田康雄 2005 「青銅武器型式分類序論」『國學院大學考古学資料館紀要』第21輯
- 柳田康雄 2007 「銅劍鑄型と製品」『考古学雑誌』第91巻第1号
- 柳田康雄 2008 「銅戈の型式分類と生産・流通」『古代学研究』第180号
- 山崎道治 1974 「春秋時代楚国の政治改革」『古代文化』第24巻第11号
- 山下志保 1993 「楚墓の基礎的研究」『古文化談叢』第30集下
- 山田崇仁 1997 「浙川下寺春秋楚墓考—二号墓の被葬者とその時代—」『史林』第80巻第4号
- 山本幸司 2003 「王権とレガリア」『岩波講座 天皇と王権を考える6 表徴と芸能』岩波書店
- 山本堯 2016 「浙川楚墓再考—出土青銅礼器の伝世とその意義—」『中国考古学』第16号
- 俞偉超 1985 『先秦兩漢考古学論集』文物出版社
- 俞偉超・高明 1978-1979 「周代用鼎制度研究」『北京大学学报』1978年第1期・第2期、1979年第1期
- 楊寛 2003 『戦国史』上海人民出版社
- 容庚 1941 『商周彝器通考』哈佛燕京學社
- 楊正宏・蕭夢龍編 2008 『鎮江出土吳国青銅器』文物出版社
- 楊宝成 1991 「試論曾国銅器的分期」『中原文物』第4期
- 吉開将人 1994 「曾侯乙墓出土戈・戟の研究」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第12号
- 吉開将人 2008 「中国古代における生産と流通—青銅製品を中心に—」高濱秀編『現代の考古学4 生産と技術の考古学』朝倉書店
- 吉本道雅 1986 「春秋国人考」『史林』第69巻第5号
- 吉本道雅 1995a 「楚史研究序説」『立命館文学』第541号（吉本道雅2005『中国先秦史の研究』京都大学学術出版会に再録）

- 吉本道雅 1995b 「春秋世族考」『東洋史研究』第53卷第4号(同上)
- 吉本道雅 2005 『中国先秦史の研究』京都大学学术出版会
- 洛陽市文物工作隊編 2009 『洛陽王城広場東周墓』文物出版社
- 李学勤 1959 「戦国題銘概述(上)(中)(下)」『文物』第7～9期
- 李学勤 1985 「光山黄国墓的幾個問題」『考古与文物』第2期
- 李学勤 1991 『東周与秦代文明(增訂本)』文物出版社
- 李夏廷・李劭軒編 2009 『晋国青銅芸術図鑑』文物出版社
- 李建生 2012 「輝県琉璃閣与太原趙卿墓相關問題」『中国国家博物館館刊』第2期
- 李權民・吳家安 1991 「中国古代青銅戈」『考古学集刊(7)』科学出版社
- 李宏 2008 「輝県琉璃閣墓地国別族属考」『中原文物』第3期
- 李济 1950 「豫北出土句兵分類図解」『中央研究院歴史語言研究所集刊』第22本(李济1990『李济考古学論文選集』文物出版社に再録)
- 劉緒 2008 「晋乎?衛乎?—琉璃閣大墓の国属」『中原文物』第3期
- 劉彬徽 1984 「楚国有銘銅器編年概述」『古文字研究』第9輯
- 劉彬徽 1991 「从包山楚簡紀時材料論及楚国紀年与楚曆」湖北省荆沙鐵路考古隊編『包山楚墓』文物出版社
- 劉彬徽 1995 『楚系青銅器研究』湖北教育出版社
- 林滙 1990 「周代用鼎制度商榷」『史学集刊』第3期
- 李零 1981 「楚叔之孫卬究竟是誰—河南浙川下寺二号墓之墓主和年代問題的討論」『中原文物』第4期
- 李零 1986 「楚国銅器銘文編年匯釈」『古文字研究』第13輯
- 李零 1987 「楚国銅器類説」『江漢考古』第4期
- 李零 1992 「論東周時期的楚国典型銅器群」『古文字研究』第19輯
- 李零 1996 「再論浙川下寺楚墓一説『浙川下寺楚墓』—」『文物』第1期
- 李零 2004 「論楚国銅器的類型」『入山与出塞』文物出版社
- 路国權 2018 『東周青銅容器譜系研究』上海古籍出版社

【英文】

- Appadurai, A. 1986 Introduction: commodities and the politics of value. In: A. Appadurai (ed.) *The Social Life of Things*. Cambridge University Press.
- Bagley, R. 1996 Introduction. *Art of Houma Foundry*. Institute of Archaeology of Shanxi Province, Princeton University Press.
- Falkenhansen, L. von 2002 The Bronzes from Xiasi and Their Owners. 『考古学研究(五)・慶祝鄒衡先生七十五壽辰暨從事考古研究五十年論文集』科学出版社
- Falkenhansen, L. von 2006 *Chinese Society in the Age of Confucius (1000-250BC): The Archaeological Evidence*. Costen Institute of Archaeology, University of California.
- Gettens, R. J. 1969 *The Freer Chinese Bronzes, vol.2: Technical Studies*. Smithsonian Institute.
- Karlgren, B. 1934a The Exhibition of Early Chinese Bronzes. *Bulletin of the Museum of Far Eastern Antiquities*, no.6.
- Karlgren, B. 1934b On the Date of Piao Bells. *Bulletin of the Museum of Far Eastern Antiquities*, no.6.
- Karlgren, B. 1937 New Studies on Chinese Bronzes. *Bulletin of the Museum of Far Eastern Antiquities*, no.9.
- Karlgren, B. 1941 Huai and Han. *Bulletin of the Museum of Far Eastern Antiquities*, no.13.
- Leach, J. and Leach, E. (eds.) 1983 *The Kula: New Perspectives on Massim Exchange*. Cambridge University Press.
- Munn, N. 1986 *The Fame of Gawa: A Symbolic Study of Value Transformation in a Massim (Papua New Guinea) Society*. Cambridge University Press.
- Weiner, A. 1992 *Inalienable Possessions: the Paradox of Keeping-While-Giving*. Berkeley, University of California Press.

論文要旨

東周時代は中国古代史上における一大画期に位置づけられる。先行する殷～西周時代では祭政一致の神権政治に特徴づけられる古代王朝が発達し、青銅器の授受が王と諸侯の支配関係を形成・維持するうえで重要な媒介として機能していた。一方、秦漢時代では郡県制に代表される中央集権的支配体制が確立し、その諸制度は後の歴代王朝へと受け継がれることとなった。東周時代はこれら両時代の過渡的段階に位置し、秦漢時代の諸制度の揺籃期としての性格をもつ。それゆえに、同時代の様相の解明は中国古代史のみならず、古代東アジア世界における国家形成の問題を考えるうえでも不可欠の重要性を有している。

これまで東周史研究の主流を占めてきたのは文献史学によるアプローチであり、実証的な歴史研究が同時代社会の様々な側面を明らかとしてきたことについては、今さら贅言を要しない。ところが、春秋・戦国それぞれの時代における史料状況の違い、両時代の過渡期に関わる史料の欠乏などに起因し、東周時代全体を通じた長期的視点に立つ分析が阻害されているという問題点も存在する。こうした問題点を解決するために、本論文は通時的分析を得意とする考古学的手法に基づき、東周時代全体を通じて最も豊富に出土資料が得られている華中地域を主な対象とし、社会構造の変革を青銅器の生産・流通体制の側面から明らかにしようと試みるものである。

本論文は以下の6章から構成されている。

第I章では王権の祭祀を支える重要な器物として機能した東周時代青銅彝器を中心に、これまでの研究の歩みを振り返り、そこに見られる方法論上の問題点を指摘した。第一に器形・紋様・鑄造技術がそれぞれ個別に論じられ、それらを総合的に捉える視点が欠如していたこと、第二に青銅彝器同士の共伴関係に大きく依存した編年の方法が採られていること、第三に帰納された型式学的変遷が何を意味するのかという点が等閑に付されていること、第四に青銅器の果たす役割が極端に単純化して捉えられ、複雑なライフヒストリーの形成に十分注意が及んでいないことが挙げられた。

第II章では上記の反省に立ち、まず華中地域出土の青銅彝器を対象として、器形・紋様・鑄造技術を総合的に捉える視点から型式分類・編年を行い、東周時代全体を10期に区分する編年案を提示した。また同時に銘文史料などから各時期に絶対年代を与えるとともに、各器種・型式を横断して現れる単位紋様の表現手法に着目、それに基づいて資料群を設定し、作器者銘などとの対応関係からそれらが製作系譜の異同を表したものであることを論証した。さらに各製作系譜の分布上での動態を確認し、当初は複数の製作系譜が併存する形で行われていた青銅彝器生産が、前5世紀後半から前4世紀前半の戦国前期にかけて変質していき、前4世紀後半以降には一元的な生産・流通体制が確立していた可能性を指摘した。こうした動きは中央集権的支配体制の形成と密接な関わりがあるものと考えられるため、これまで文献記載の少なさによって様相が不明とされてきた戦国前期が、画期としての重要性を帯びていた蓋然性が浮上した。

第III章では、祭祀とともに古代における重要な国家事業とされた軍事の側面を明らかとすべく、当時最

も盛行した青銅製武器である戈戟を取り上げ、第Ⅱ章と同じく型式学的分析からその生産・流通体制の変遷を論証した。まずは属性分析に基づく型式分類・編年を行い、東周時代全体を6時期に区分するとともに、銘文や出土文字史料から各時期の絶対年代を考察した。続いて各型式を横断して現れる形態的特徴の相関関係から、戈戟全体を5つの資料群に大別、それらが製作系譜の違いを表したとする仮説を立て、時期ごとの組成、分布の変化などからそれを検証した。その結果、青銅彝器に見られたのと同じように、戈戟においても当初複数の製作系譜の併存が前5世紀後半、前4世紀中頃の2回の画期を経て解体され、一元的な生産体制が達成されることを説いた。従来より中原地域出土の戈戟の銘文分析から、その生産体制は国家形成と密接な関係があることが指摘されてきたが、本章の分析結果によって、銘文史料が少なかった華中地域においても同様の動きがあったことが明らかとなった。またその端緒が戦国前期にまで遡る可能性が提示され、第Ⅱ章の分析結果と併せ、改めて同時期の重要性が浮き彫りとなる形となった。

第Ⅳ章では河南省淅川県で発見されている楚墓群出土の青銅彝器を対象として、伝世という現象に注目しながら、ライフヒストリーの変化とその歴史的背景について考察を行った。研究者の間で年代観に混乱が見られた淅川楚墓群出土の青銅彝器のなかには、製作年代と埋納年代の間に大きなずれが生ずる、いわゆる伝世が発生している可能性を指摘、これまでの相伴関係に依拠した編年では「ノイズ」として扱われてきた伝世を、型式学的分析と銘文分析の両面から客観的に認定し、その性質の変化を論証した。その結果、おおよそ春秋末を境として伝世のあり方に大きな変化が見られることが判明し、淅川楚墓群に埋葬された薳氏一族のなかで、他氏族から贈与された器から、自ら長期間継承し伝世した器へと重視される対象が移り変わる様子が見られた。このことは、急速に政治的優位性を失いつつあった、旧世代の貴族の置かれた時代環境と深く関わるものとし、同時期に発生していた大きな社会変化を別の角度から照射する現象である可能性を指摘した。

第Ⅴ章では、青銅彝器のもつライフヒストリーの多様性をさらに明らかとするために、対象地域を中国全土に広げ、青銅彝器の生産から流通、副葬に至るプロセスを考古学的分析、銘文分析の両面から考察した。山西省侯馬市で発見されている鑄銅遺跡出土の鑄型を取り上げ、そこに表された紋様の特徴を分析、同じ特徴をもつ製品の分布状況の検討から、それが同時代の貴族社会のネットワーク、遠交近攻の外交戦略に影響される形で、一諸侯国の領域をはるかに超える遠隔地へと流通していた実態を明らかとした。さらに銘文内容の検討から、青銅彝器の流通の契機には婚姻や贈与など、様々な儀礼的文脈が見られることを確認し、そうした契機によって移動を繰り返す青銅彝器が、結果として長期間伝世する現象も見られることを指摘した。こうした伝世青銅器のほかにも、当時製作されていた青銅彝器のなかには、西周青銅器を忠実に模倣した「倣古青銅器」の存在も認められた。来歴の深度、遠い過去や伝統を表象するという機能が、当時の人々によって重視されていたことが推測され、青銅彝器のもつこうした側面が、この時代に新たに求められるようになった「レガリア」としての価値を裏書きしていたと考えられる。このことはまた、周王室の権威が衰退した春秋時代社会の大きな特質を反映していると結論づけた。

第Ⅵ章では以上の各章の検討結果をまとめ、さらにその結論に対して補足を行った。第Ⅱ章・第Ⅲ章の検討により、華中地域では前5世紀後半から前4世紀前半にかけて青銅器の生産・流通体制に変革が起き

ていたことが明らかとなったが、それは第Ⅳ章・第Ⅴ章で検討した青銅器の扱われ方・ライフヒストリーの変化とも軌を一にするものである。特に青銅葬器の型式変化に顕著に表れていたように、量産化に伴う製作工程の省略と、伝統的な紋様を保持しようとする保守性との鋭い対立は、新旧世代の貴族間、および同時期に形成されつつあった「都市型官僚層」との間に生まれていた絶えざる社会的矛盾の表出として捉えられ、大局的に見れば後者が前者を徐々に圧倒する様子が窺われる。そして一元的な青銅器の生産・流通体制が現出した前4世紀後半には、国家的な財政機構や物流統括の機構、さらにはそれに支えられた新たな身分制や王権のあり方が確立していたことが推測される。

以上の検討結果を踏まえるならば、これまで文献上で中原諸国との比較から後進性が指摘されてきた楚国においても、戦国中期頃には相当程度に中央集権化が進行していたと評価され、なおかつその形成のうえで、前5世紀後半から前4世紀前半の戦国前期が大きな画期をなしていたと帰結される。このことは、東周時代社会像を捉えるうえでも重要な意義を有し、その解明に向けて新たな視角を提供するものと言える。